

清須市はるひ絵画トリエンナーレ
アーティストシリーズ Vol.102

高田裕大 展 続 測量の日々

2023年12月12日(火) - 2024年1月8日(月・祝)
清須市はるひ美術館

アーティストシリーズは、公募展「清須市はるひ絵画トリエンナーレ」の受賞者を一名ずつ個展形式で取り上げる展覧会です。102回目となる本展では、清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレで審査員賞[杉戸洋]を受賞した高田裕大をご紹介します。

生い茂る草木とそこに佇む人物。地上や地中に生息する動物や昆虫たち。これらは作者である高田自身の体験を通して描かれた光景です。

近年、高田は測量の仕事で得た経験をもとに制作をおこなっています。その仕事では、過去の記録に基づいて土地の形や大きさを調査する為の測量に携わっているそうですが、長年人が出入りした形跡がない山林や荒地のような土地を訪れるケースも多いそうです。そのため、実際に足を踏み入れると多種多様な生き物の存在を目の当たりにします。その場面に遭遇した時の印象をなるべくそのまま描き出したいという高田は、受け取った情報を咀嚼し要素を抽出しながらコミカルなイメージへと転換していきます。絵画作品では日本画に用いられる岩絵具を使って描いている点も一つの特色と言えるでしょう。

これらの作品には、生計のためにおこなう測量の仕事と、表現活動である作品制作を切り離すことなく同等に扱おうとする高田の姿勢が表れています。そして、人間社会の都合をよそに各々の生態系を営む生き物たちと自身との関係を見つめるまなざしからは、様々なしがらみにとらわれまいとする作家の意識を垣間見ることができるのではないのでしょうか。

本展では、公募展受賞作《開拓者》(2021年)から近年にかけて制作された測量にまつわる絵画や立体を中心に、測量で用いられる設計ソフトを駆使してコンピュータ上で描いた作品や、日常的に取り組んでいるドローイングなど、幅広い手法の作品をご紹介します。高田が遭遇したできごとを追体験するように本展をお楽しみいただけましたら幸いです。

高田 裕大 / TAKATA Yudai

1985年 富山県高岡市生まれ

■主な個展

2021年 「測量の日々」 gallery N (愛知)

2020年 「ここは地中」 ニュースペース パ (東京)
「高田裕大のドローイング展その二」 musico (愛知)

2018年 「火」 gallery N 神田社宅 (東京)

2017年 「火」 maison shintenchi (愛知)

2016年 「Under the Ground」 gallery N (愛知)
「高田裕大のドローイング展」 窯横カフェ (愛知)

2014年 「Horizon」 北陸銀行金沢問屋町支店ほくぎんアートギャラリー (石川)

■主なグループ展

2023年 「川村元紀と高田裕大展」 gallery N (愛知)
「萬均ショップ パ」 ニュースペース パ (東京)

2022年 「VOCA 展 2022 現代美術の展望 - 新しい平面の作家たち -」 上野の森美術館 (東京)

2018年 「足助ゴエンナーレ 足助の芸術界限」 豊田市足助町古い町並み一帯 (愛知)

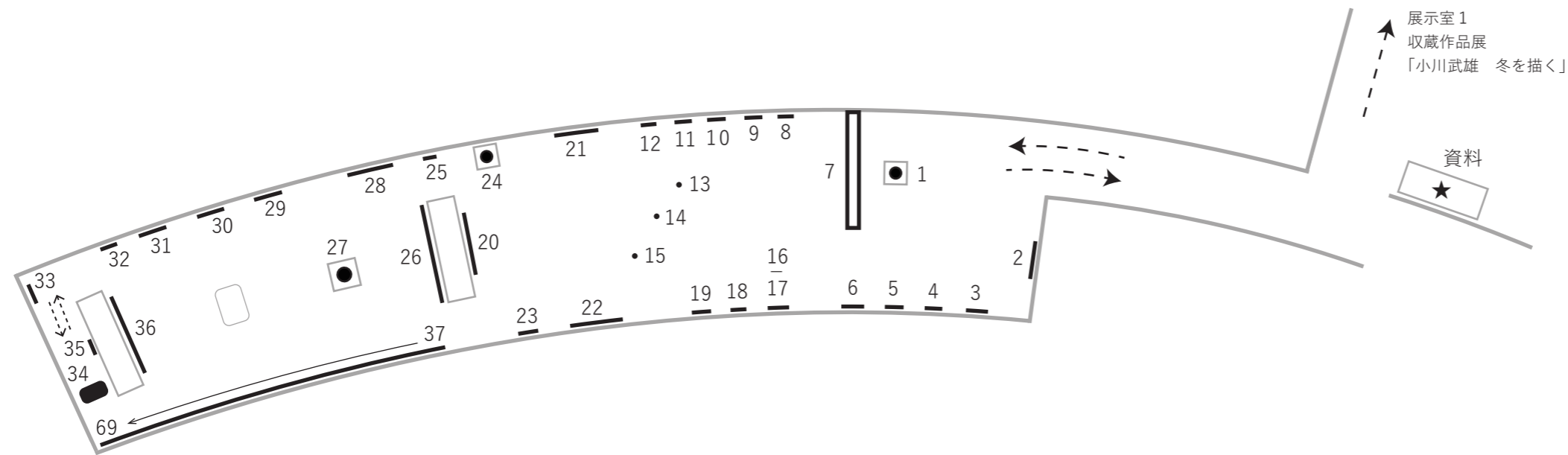
2017年 「はりこ植物園」 企画・展示 See Saw gallery +hibit (愛知)
「クマバリ芸術祭」 企画・展示 アトリエハウス KUMABARI、TOKIO 荘 (愛知)

2016年 「オーエス！クマバリ」 企画・展示 アトリエハウス KUMABARI、TOKIO 荘 (愛知)

近年、土地の測量の仕事をしています。土地の形を明確にする為に、何年も人の出入りがなくなった土地に足を踏み入れる事も多い仕事です。土地の過去資料と現地の調査、伐採に穴掘り、家を建てるにも道を造るにも、こうした業務は計画の土台として誰よりも先に行う事になります。土地の状況は住宅、田畑、山林と色々ですが、最初に踏み入るという事は大抵が草茫茫々です。特に草木の多い土地へ分け入る時は、鎌を片手に道を拓き人知れず探検をしているような感覚になります。

そんな誰にも知られずに埋もれてしまいうだろう探検と測量の日々を形に残したくて、絵に描く事にしたのです。

高田裕大



【ご鑑賞にあたっての注意事項】

- * 展示作品、展示台には触れないでください。
- * 床にも作品がございます。足元にご注意ください。
- * 本展では展示作品を撮影していただけます。撮影の際は、以下の注意事項をよくご確認ください。
 - ・フラッシュ、三脚、自撮り棒などの使用はご遠慮ください。
 - ・撮影の際は周囲の鑑賞者の妨げにならないようご配慮ください。
 - ・展示作品との接触にご注意ください。
 - ・撮影した写真は私的範囲内でのご利用に限ります。

1. 測る人
油性塗料、モルタル
22×14×26cm 2023年

2. キジ
岩絵具、麻紙
72×52cm 2019年

3. ヨウシュヤマゴボウ
岩絵具、麻紙
44×37cm 2019年

4. 境界
アクリルガッシュ、紙
21×26.5cm 2023年

5. 測る人
アクリルガッシュ、紙など
21×26.5cm 2018年

6. ダンゴムシ
アクリルガッシュ、紙
30.5×43.5cm 2023年

7. under the ground2
岩絵具、麻紙
224×291cm 2016年

8. 落ち葉
アクリルガッシュ、紙
29.7×21cm 2023年

9. トゲのある枝と手
アクリルガッシュ、紙
29.7×21cm 2023年

10. 竹林
アクリルガッシュ、紙
62×46.5cm 2023年

11. 竹林
アクリルガッシュ、紙
65.5×44.5cm 2021年

12. 竹林
アクリルガッシュ、紙
29.5×41.5cm 2022年

13. ジョイント竹
アクリルガッシュ、紙管
4×4×309cm 2021年

14. ジョイント竹
アクリルガッシュ、紙管
3×3×254.5cm 2023年

15. ジョイント竹
アクリルガッシュ、紙管
4×4×234cm 2023年

16. バッタ
アクリルガッシュ、紙
21×29.7cm 2021年

17. よける！
アクリル、紙
21×29.7cm 2022年

18. 竹藪
アクリルガッシュ、紙
29.7×21cm 2022年

19. 伐採
アクリルガッシュ、紙
35×45.5cm 2022年

20. 開拓者
岩絵具、麻紙
162×130cm 2021年

21. 開拓者
岩絵具、麻紙
162×130cm 2021年

22. 開拓者
岩絵具、麻紙
162×130cm 2021年

23. 竹
アクリルガッシュ、紙
26.5×21cm 2021年

24. ヘビの壺
陶
20×20×21.5cm 2015年

25. under the ground
(boundary marker)
岩絵具、麻紙
162×28.5cm 2023年

26. 石
インク、コピー紙
250×247cm 2021年

27. 土地
油性塗料、モルタル
41×30×6.5cm 2023年

28. ダンゴムシ
インク、コピー紙
139×130cm 2023年

29. ビッグハンマーメイクアホール
アクリルガッシュ、紙
73×52cm 2021年

30. おどおどきよろきよろ
アクリルガッシュ、紙
73×52.5cm 2022年

31. 種つく植物
アクリルガッシュ、紙
73×51cm 2022年

32. スコップ
アクリルガッシュ、紙
53×33.5cm 2022年

33. A day
岩絵具、麻紙
27.5×27.5cm 2023年

34. あまったモルタルの石
モルタル
サイズ可変 2021-2023年

35. 責任
アクリルガッシュ、紙
21×14.5cm 2022年

36. なかよくしようぜ
岩絵具、麻紙
180×226.5cm 2023年

37. - 69.
作品番号/作品名/制作年の順に記載
素材：アクリルガッシュ、紙など
サイズ：29.7×21cm、*21×29.7cm

- 37. 開拓者 2019年
- 38. 真夏のアスファルト 2020年
- 39. ドキュメントとびだした
- 40. 桜ちる日 2021年
- 41. 嵐がくる
- 42. 8月 *
- 43. ぼこぼこ
- 44. 星が見える * 2022年
- 45. 強風 *
- 46. 西日 *
- 47. 猛暑 *
- 48. 穴を掘る *
- 49. よけろ！
- 50. 雪の日 2023年
- 51. 三次元測量
- 52. いちおうやってみる
- 53. 杭さがし
- 54. 山林
- 55. いちおうやってみる
- 56. いちおうやってみろ
- 57. 崖
- 58. 花粉が飛ぶ日
- 59. 三次元測量
- 60. スコップ
- 61. 山
- 62. こことって
- 63. こことって
- 64. 大雨
- 65. 撤収
- 66. ブタクサ
- 67. 日暮れ
- 68. ビッグハンマーはずして折れた
- 69. 街

* 作品のキャプションは以下の順番で記載。
作品番号/作品名/素材/サイズ（絵画：縦×横 | 立体：幅×奥行×高さ）/制作年